

北條霞亭

ほうじょう・かてい

廉塾都講(塾頭)、弘道館教授、福山藩儒官

経歴

生: 安永9年(1780年)9月5日、志摩的矢(現三重県志摩市磯部町の矢)生まれ

没: 文政6年(1823年)8月17日、江戸丸山藩邸において病死、享年44歳

寛政9年(1797年)	16歳	京都に出て儒学を皆川淇園に、医学を広岡文台に学ぶ
享和2年(1802年)	21歳	江戸に遊学して亀田鵬斎の塾に寄寓する
文化6年(1809年)	28歳	宇治山田(現伊勢市)の林崎書院の院長
文化8年(1811年)	30歳	京都・嵐山に僑居
文化9年(1812年)7月	31歳	『嵯峨樵歌』を著す
文化10年(1813年)8月下旬	32歳	福山(神辺)に来て菅茶山に師事、廉塾において都講
文化12年(1815年)	34歳	『薇山三観』を上梓
文化12年(1815年)4月	34歳	井上敬と結婚
文政2年(1819年)4月	38歳	弘道館文学教授
文政4年(1821年)6月	40歳	江戸藩邸において大目付格儒官兼奥詰

生い立ちと学業、業績

通称は讓四郎、名は讓、字は子讓、また景陽、号は霞亭または天放生。

北條霞亭は郷医北條道有の長男として、安永9年(1780年)、志摩的矢(まとや)(現三重県志摩市磯部町の矢)に生まれた。家系は北条早雲を祖とし、曾祖道益、祖道可、父道有みな医を業とした。母は中村氏、6男4女を産む。霞亭はその長男で幼時から学問を好み、寛政9年(1797年)18歳の時、京都に出て、儒学を皆川淇園(みながわ・きえん)に、医学を広岡文台に学んだ。享和2年(1802年)から2年間、江戸に遊学して、亀田鵬斎の塾に寄寓した。霞亭は北国に遊び、また越後に寄寓して、藩侯の招聘を避けながら研修に努めた。

文化6年(1809年)から3年間、郷里に近い宇治山田(現三重県伊勢市)の林崎書院(学院兼図書館)の院長となって研鑽を深めたが、洛北嵯峨の清絶な自然を愛し、文化8年(1811年)32歳のとき、弟とともに嵐山に僑居して詩魂を磨いた。この間、作詞151首を『嵯峨樵歌』

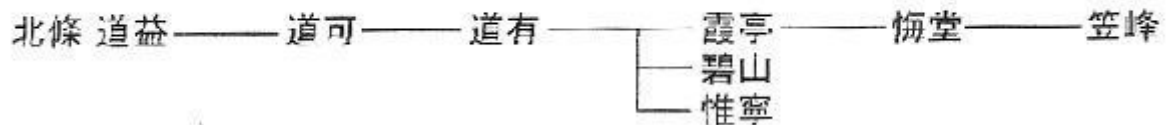
にまとめ、菅茶山に送ってその閱を請うたことから、茶山の知遇を得て菅茶山に師事した。一度帰郷ののち、文化10年(1813年)8月下旬、34歳の時、福山(神辺)を再訪、都講として廉塾に留まることとなった。霞亭は、茶山の代講として塾生の教育につとめるかたわら、文化11年(1814年)新春から翌年仲秋にわたって、「三原観梅」「山南観漁(鯛網)」「竹田観螢」など風流な遊びに興じ、37首を併せ上梓して『薇山三観』と題した。〔薇山とは黄薇(きび、備前・備中・備後)の山のこと〕。

一方、文化12年(1815年)4月、34歳で、茶山の姪で当時寡居していた井上敬(いのうえ・きょう、頼菅三の母)と結婚した。

文政2年(1819年)4月、阿部正精は霞亭を弘道館文学教授に召した。当時の儒者には菅茶山、鈴木宜山、衣川閑斎、伊藤貞蔵(竹坡)、伊藤文佐(蘆汀)と霞亭の6人がいた。さらに文政4年(1821年)6月には、江戸藩邸に呼び寄せ、大目付格儒官兼奥詰を命じ、30人扶持を給して優遇した。その職務は、奥向きの講釈が月に3度、丸山学問所における藩士や子弟に対する講釈が月に9度であった。出府後わずか2年、文政6年(1823年)8月17日、江戸丸山藩邸において病死した。享年44歳。巣鴨(東京都豊島区)眞性寺に葬る。同寺にある碑文は頼山陽の撰。霞亭に子がなく、侍医河村重善の次男に後を継がせる。これが北條悔堂、名は退助である。

著書に、『霞亭涉筆(1巻)』、『薇山三観(2巻)』、『嗟峨樵歌(1巻)』、『杜詩挿註(8巻)』、『助辞弁(8巻)』、『古今和歌集註』、『帰省詩囊(1巻)』、『霞亭小集(1巻)』、『霞亭摘稿(1巻)』、『歳寒堂遺稿』、『小学纂註(8巻)』(校讀)がある。(鐘尾光世、歴史資料室学芸員)

略系図



誠之館所蔵品展示品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
00025	北條霞亭 書	五言対句「餘花」	—	—
00026	北條霞亭 書	五言対句「多事」	—	—
00115	北條霞亭 書	七言絶句「故園何処」	—	—
t1030	北條霞亭 書	七言絶句「秋水」	—	—

00253	北條霞亭 著	『嗟峨樵歌』	—	文化9年(1813年)
00254	北條霞亭 校讀	『小学纂註(歳寒堂蔵板)』	歳寒堂	文政5年(1822年)
00285	北條霞亭 校讀	『小学纂註(福山誠之館蔵板)』	福山誠之館	文政5年(1822年)
04513	北條霞亭 校讀	『小学纂註(整理社蔵)』	整理社	文政5年(1822年)
00260	北條霞亭 著	『爾雅』	誠之館	—
05505	神辺郷土史研究会 編	『菅茶山とその弟子たち—神辺の歴史と文化 第4号—』	神辺郷土史研究会	昭和51年(1976年)
03054	村上正名 著	『備後人物風土記—歴史をつくった人々—』	歴史図書社	昭和52年(1977年)
02218	神辺郷土史研究会 編	『廉塾の塾頭 北條霞亭とその交友<神辺の歴史と文化(第8号)>』	神辺郷土史研究会	昭和56年(1981年)
04707	菅茶山記念館 編	『菅茶山記念館第三回特別展 北條霞亭の生涯と恒心社友』	菅茶山記念館	平成7年(1995年)

出典1:『廉塾の塾頭 北條霞亭とその交友<神辺の歴史と文化(第8号)>』、神辺郷土史研究会編刊、昭和56年11月8日

出典2:『菅茶山記念館第三回特別展 北條霞亭の生涯と恒心社友』、菅茶山記念館編刊、1995年10月18日

出典3:『誠之館記念館所蔵品図録』、60頁、福山誠之館同窓会編刊、平成5年5月23日

出典4:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、91頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典5:『福山藩の文人誌』、74頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典6:『福山藩の教育と沿革史』、160頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典7:『郷賢録』、2頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典8:『医王山東光院眞性寺』、34頁、「北條霞亭 墓誌銘」、頼山陽、眞性寺編刊、平成15年6月21日

出典9:『福山学生会雑誌(第48号)』、附24頁、「霞亭先生北條君墓銘」、頼山陽(頼襄)、福山学生会事務所編刊、大正5年7月27日

出典10:『備後人物風土記—歴史をつくった人々—』、250頁、村上正名著、歴史図書社刊、昭和52年10月31日

出典11:『菅茶山』、50頁、「菅茶山」、森鷗外、藤井猛編著、昭和56年10月25日

出典12:『福山の今昔』、160頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年3月31日更新:本文・関連情報●2005年10月4日更新:所蔵品●2006年3月15日更新:経歴・本文・所蔵品・出典●2007年2月13日更新:経歴・所蔵品●2008年4月10日更新:経歴・本文●2008年7月24日更新:関連情報●2008年11月26日更新:経歴・誠之館所蔵品・関連情報●2008年12月12日更新:関連情報●2009年10月8日更新:誠之館所蔵品●2010年3月19日更新:写真・出典●2014年1月17日更新:誠之館所蔵品展示品●2015年12月8日更新:レイアウト●